



○ 持続可能な開発目標、SDGsについて ○ 自主防災組織連絡協議会の創設について

その他の質問

- ・歴史遺産の保存と活用について
- ・同窓会補助制度について

一般質問

問 「SDGs（エスディージーズ）」「持続可能な開発目標」は、世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるため、途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、国連加盟の193カ国が2016年から2030年の15年間で達成するために国際社会が取り組むべき17の目標、169件の国際目標である。SDGsは、これからの自治体において重要な課題であり、積極的な推進によってまちづくりや地方創生に反映させなければならぬと考えるが、SDGsについてどのような認識なのか。また、策定中の次期環境基本計画にSDGsの考えを取り入れるべきか。

答 現在策定中の第2次勝山市環境基本計画において、「持続可能な開発目標（SDGs（エスディージーズ））」の達成につながる環境政策、およびその達成のための指標について定めた。

問 各地区自主防災組織の活動状況やさまざまな取り組みについて、情報集約するなど、自主防災組織間で情報共有のできる体制を整えた、自主防災組織連絡協議会を創設すべきと提案しているが、準備や計画など総合的な取り組みの進捗状況はどのようなになっているのか。

答 現在の創設に向けての状況は、まだ協議会の創設には至っていない。これは、昨年度は8月の集中豪雨、9月の台風18号、10月の台風21号、そして1月からの豪雪対応等により、防災対策の優先順位の関係から、創設の準備に着手できなかったことが挙げられる。

現在、自主防災組織の数は、全112地区の内、58地区、61組織となっており、組織率は51.8%となっている。

これからというところであるが、自主防災組織の数を増やすとともに、お互いの情報交換といった横の連携を図るため、今後、自主防災連絡協議会の創設を目指したい。



○ 今冬の雪対策について ○ 登下校防犯プランについて

その他の質問

- ・入札制度の改善について
- ・教員の働き方について

一般質問

問 勝山市地域防災計画において雪害に関する見直しを行う際に、パブリックコメントの募集も必要と思うが、実施の時期について伺う。

答 防火水槽や消火栓の確保については、雪に埋もれて人が近づくのも困難な箇所もある。また、災害時の避難施設である小学校体育館の出入口は積雪が多く、身体の不自由な方や高齢者の方々は体育館に入ることはできない。

消火設備と避難所の出入口の確保について伺う。

答 地域防災計画の見直しは、いただいた意見を反映して計画の見直しを行い、計画案を策定次第、パブリックコメントを実施する。

消防施設の除雪については、今冬のような場合には、行政だけの除雪には限界があるため、市民の方に協力をいただけるよう、機会をとらえ呼び掛けていきたい。

また、各小中学校の体育館等の玄関除雪については、今冬のような状況下で、業者を確保することが困難であるため、除雪が完了している児童玄関等から建物に入っていないなど、柔軟に対応したい。

問 新潟市で小学2年生の児童が殺害されて遺体が遺棄された事件を受け、政府は通学路の点検を行うなどした「登下校防犯プラン」をまとめた。

犯罪情勢を見ると、13歳未満の子供の被害は、15時～18時の下校時間帯に集中している傾向にある。既存の防犯ボランティアが高齢化し、担い手が不足しており、学校から距離のある自宅周辺で子供が1人で歩く「1人区間」等において、「見守りの空白地帯」が生じている。

緊急合同点検の状況と「見守りの空白地帯」解消に向けた考えを伺う。

答 教育委員会では防犯上危険と思われる箇所に、関係学校の管理職、勝山警察署員、市職員等で合同点検を行った。点検結果を受けて、学校に「子ども110番の家」を再確認する指導の徹底等を依頼し、警察には、下校時間帯のパトロールの強化をお願いした。

今後さらに、地域の方にも「見守りの目」を増やしていただくよう、広報等を通じてお願いしていく。